

センター試験後継の英語は、「認定試験」 (4技能)と「共通テスト」(2技能)の“併存”に！ 記述式問題の段階別表示の扱いは、更に検討！

旺文社 教育情報センター 29年7月11日

文科省は29年7月10日、センター試験に代わって32年度実施から導入する「大学入学共通テスト」(共通テスト)の「実施方針」(案)を有識者会議に提示し、英語の試験について、35年度までは「認定試験と共通テストの併存」(B案)とする実施案が了承された。

「共通テスト」の「実施方針」(案)は『高大接続改革の進捗状況について』(5月)において、大学入学者選抜改革などとともに既に公表されていたが、英語についてはB案のほか、「認定試験のみの実施」(A案)とあわせ2案が提示されていた。

ここでは、「共通テスト」英語試験の扱いなどを中心に、「共通テスト」の概要をまとめた。

■ 「共通テスト」の実施方針 概要 ■

<検討の経緯>

文科省は高大接続システム改革会議の『最終報告』(28年3月)を踏まえ、その着実な実現に向けて各改革事項についての有識者会議を省内に設置し、それぞれ具体的な検討・議論を進めてきた。『最終報告』で提起され、32年度からセンター試験に代わって実施される「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」は、「実施方針」の議論の過程(『高大接続改革の進捗状況について』<第2弾：29年5月>)で「大学入学共通テスト(仮称)」(「共通テスト(仮称)」)と名称変更された。

「共通テスト(仮称)」の「実施方針」については、当該有識者会議によって、●記述式問題の実施方法／●英語の4技能評価／●出題教科・科目、評価結果の表示、実施期日等が検討、議論され、その大筋は上記の『高大接続改革の進捗状況について』で提示された。

ただ、「英語」試験の扱いについては「共通テスト(仮称)は実施せず、民間試験を活用する認定試験のみ」(A案)／「35年度実施までは認定試験と共通テスト(仮称)を併存」(B案)の2案を提示し、大学や高校など関係団体等の意見を聞きつつ、更に検討するとしていた。

また、記述式問題の評価結果の段階別表示方法等についても検討課題とされていた。

<「共通テスト」の概要>

○ 名称・目的

現行のセンター試験に代わるテストの名称は、●大学入学希望者に求められる“共通の学力”を評価すること／●利用大学が共同して実施する“共通テスト”であることなどから、「大学入学共通テスト」(以下、「共通テスト」)に決まった(「仮称」削除)。

「共通テスト」は、大学入学希望者を対象に、「高校段階における基礎的な学習の達成の

程度」を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的とする。

このため、各教科・科目の特質に応じ、「知識・技能」を十分有しているかの評価も行いつつ、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価を行う。

○ 実施主体等

「共通テスト」は利用大学が共同して実施する性格のものであることを前提に、大学入試センターが作問、出題、採点その他一括して処理することが適当な業務等を行う。

なお、国語及び数学の「記述式問題」の採点については、多数の受検者の答案を短期間で正確に採点するため、その能力を有する“民間事業者を有効に活用”する。

○ 実施開始年度

32年度(33年度入学者選抜)から実施。

※ 次期学習指導要領に基づくテスト(新課程入試)として実施する平成36年度以降の実施方針については、33年度を目途に策定・公表の予定。

○ 出題教科・科目等

現行の学習指導要領に基づく「共通テスト」の出題教科・科目等は、現行のセンター試験と同様、国語(1科目)/地理歴史(6科目)/公民(4科目)/数学(4科目)/理科(8科目)/外国語(5科目)/専門学科に関する科目(2科目)の合計“6教科・30科目”である。

※ 次期学習指導要領において、高校の教科・科目が抜本的に見直される予定であることを踏まえ、36年度以降は“教科・科目の簡素化”を含めた見直しを図る。

○ 記述式問題の実施方法等

<国語>

① 出題範囲

記述式問題の出題範囲は、「国語総合」(古文・漢文を除く)の内容とする。

② 評価すべき能力・問題類型等

多様な文章・図表等を基に、複数の情報を統合、構造化して考えをまとめ、その過程や結果について、相手が正確に理解できるよう根拠に基づいて論述する思考力・判断力・表現力を評価する。

設問は「条件付記述式」とし、特に「論理(情報と情報の関係性)の吟味・構築」や「情報を編集して文章にまとめる」ことに関わる能力の評価を重視する。

③ 出題・採点方法・試験時間等

記述式問題の作問、出題、採点は大学入試センターで行う。ただ、採点については前述したように、民間事業者を有効に活用する。

記述式問題の採点結果は、マークシート式問題の成績とともに大学に提供し、各大学でその結果を利用する。

大学入試センターで作問、出題、採点を行う問題については、例えば、“解答文字数 80字～120字程度”の問題を含め“3問程度”とする、マークシート式問題と記述式問題の大問は分けて出題し、「試験時間」はマークシート式と合わせて“100分程度”(現行：80分)を想定している。

<数 学>

① 出題範囲

記述式問題の出題科目は、「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」とし、出題範囲は「数学Ⅰ」の内容とする。

② 評価すべき能力・問題類型等

図表やグラフ・文章などを用いて考えたことを数式などで表したり、問題解決の方略などを正しく書き表したりする力などを評価する。

特に、「数学を活用した問題解決に向けて構想・見通しを立てること」に関わる能力の評価を重視する。

③ 出題・採点・試験時間等

記述式問題の作問、出題、採点は大学入試センターで行う。ただ、採点については前述したように、民間事業者を有効に活用する。

記述式問題の採点結果は、マークシート式問題の成績とともに大学に提供し、各大学でその結果を利用する。

問題数は“3 問程度”とする。大問の中にマークシート式問題と記述式問題を“混在して出題”し、「試験時間」はマークシート式と合わせて“70 分程度”（現行：60 分）とすることを想定している。

○ 英語の“4 技能”評価

◆ 高校学習指導要領における英語教育の抜本改革を踏まえ、大学入学者選抜においても、「読む」「聞く」「話す」「書く」の“4 技能”を適切に評価するため、「共通テスト」の枠組みにおいて、民間事業者等により広く実施され、一定の評価が定着している“資格・検定試験”を活用”する。

◆ 具体的には、以下の方法により実施する。

① 「資格・検定試験」のうち、試験内容・実施体制等が入学者選抜に活用する上で必要な水準及び要件を満たしているものを大学入試センターが認定し（以下、認定を受けた資格・検定試験を「認定試験」）、その試験結果及び C E F R（※）の「段階別成績表示」を要請のあった大学に提供する。

※ C E F R (Common European Framework of Reference for Languages : Learning , teaching , assessment)の略称。外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠。

② 国は、活用の参考となるよう、C E F R の段階別成績表示による対照表を提示する。

③ 大学入試センターは、受検者の負担、高校教育への影響等を考慮し、「高校 3 年の 4 月～12 月の間の 2 回までの試験結果」を各大学に送付する。

◆ A 案／B 案の検討結果

「共通テスト(仮称)」の英語試験の取扱いについて、5 月の『高大接続改革の進捗状況について』では、次のような A 案・B 案の 2 案を提示し、大学・高校等の関係団体等の意見を聞きつつ検討するとしていた。

《A案》

平成 32 年度以降、“「共通テスト(仮称)」の英語試験を実施しない”(大学入試センター実施の「英語」試験廃止)。

英語の入学選抜に「認定試験」を活用する。

《B案》

「共通テスト(仮称)」の英語試験については、制度の大幅な変更による受検者・高校・大学への影響を考慮し、平成 35 年度までは実施し、各大学の判断で「共通テスト(仮称)」と「認定試験」のいずれか、又は双方を“選択利用”することを可能とする。

(『高大接続改革の進捗状況について』<29年5月>より)



検討結果

- 「共通テスト」の英語試験については、制度の大幅な変更による受検者・高校・大学への影響を考慮し、認定試験の実施・活用状況等を検証しつつ、平成 35 年度までは実施し、各大学の判断で「共通テスト」と「認定試験」のいずれか、又は双方を“選択利用”することを可能とする。
- 各大学は、「認定試験」の活用や「個別試験」により“英語 4 技能”を総合的に評価するよう努める。
- なお、「認定試験」では対応できない受検者への対応のための「共通テスト」の英語試験の実施については、別途検討する。

(「大学入学共通テスト実施方針(案)」<29年7月>より)

◆ 「認定試験」と「共通テスト」併存の背景

「共通テスト」の実施方針を検討、議論している文科省の有識者会議は、英語 4 技能実施企画部会を設置して専門的な検討を進めるとともに、関係団体や有識者等に「実施方針(案)」(29年5月)を示して意見を求めたり、意見募集を行ったりした。

そうした結果、英語試験の扱いに関する上記 2 案に対しては、次のような意見があった。

- 4 技能評価については“総論として賛同”するものが多い／● B案としつつ「共通テスト」として英語試験の“継続実施を強く要望”する意見(全国高等学校長協会)／● 「共通テスト」英語試験の“廃止”は、「認定試験」の“実施・活用状況を検証した上で判断すべき”とする意見(国立大学協会)／● 導入時期も含め“慎重な検討を促す”意見(都道府県教育長会議)など。

全体的には A 案に“否定的”で、「共通テスト」英語の“継続実施”を求める意見が多かったという。有識者会議ではこうした意見を踏まえ、上記のような「実施方針」を決めた。

◆ 4 技能評価の推進

有識者会議では、英語の 4 技能評価が早期に多くの大学で実施されることが望ましいことから、各大学は「認定試験」の活用や「個別試験」での英語 4 技能を総合的に評価するよう努めることとしている。

また、「共通テスト」の出題内容等は、英語の 4 技能評価の必要性を踏まえ、必要な改善を行うとともに、配点等のバランスについても「プレテスト」(29年11月実施の 5 万人規模、30年12月頃実施の 10 万人規模の試行テスト)の実施を通じた検討を行うとしている。

◆ 受検者への負担軽減

「認定試験」を活用する場合は、受検者の負担に配慮してなるべく多くの「認定試験」を対象として活用するよう各大学に依頼するとしている。

各「認定試験」については、できる限り、センター試験と同等以上の実施場所を確保できるように試験団体と調整を図る。実施期日・回数については、“毎年度4月～12月の間に、全都道府県で複数回実施する”ことを求めるとしている。

また、受検者の負担が極力増えないよう、大学受検者全体に対する抑制に加え、低所得者世帯の受検者等の検定料減免等の配慮も求めている。

◆ 「認定試験」の公表等

英語の資格・検定試験に関する認定、成績収集・提供の詳細なシステム設計や参加要件は、当「実施方針」の公開後、更に高校・大学関係団体や資格・検定団体等との調整を進め、その後、大学入試センターが各資格・検定団体からの認定申請を受けて審査し、認定した資格・検定試験を公表するとしている。

○ マークシート式問題の見直し

次期学習指導要領の方向性を踏まえ、各教科・科目の特質に応じ、より“思考力・判断力・表現力”を重視した作問となるよう見直しを図る。

○ 試験結果の表示

◆ マークシート式問題

各大学において、「入学者受入れ方針」に応じた“きめ細かい選抜”に活用できるよう、大学のニーズも踏まえつつ、現行のセンター試験よりも“詳細な情報”を大学に提供する。提供する情報内容は、次のような事項を含め、今後、「プレテスト」等の状況も踏まえつつ検討し、29年度中に結論を得るとしている。

- 設問、領域、分野ごとの成績
- 全受検者中での当該受検者の成績を表す“段階別表示”

◆ 記述式問題

設問ごとに設定した“正答の条件”（形式面・内容面）への適合性を判定し、その結果を“段階別”で表すことなどについて検討する。

結果の表示の仕方については、国語、数学の科目特性や試験問題の構成の在り方も踏まえ、「プレテスト」等を通じて明確化する。

○ 実施期日等

「共通テスト」の実施期日は、“1月中旬の2日間”とする。

「マークシート式問題」と国語、数学の「記述式問題」は同一日程で、当該教科の試験時間内に実施する。

成績提供時期については、現行の1月末から2月初旬頃の設定から、記述式問題の「プレテスト」等を踏まえ、“1週間程度遅らせる方向”で検討する。